

材料内訳

1) 顔	1枚	5% 正方形	楮紙	白色
2) 袖	1枚	15% x 10% 正方形	友禪和紙	柄物
3) 手	1枚	15% x 8.5%	楮紙	白色
4) 身道	1枚	15% 正方形	友禪和紙	柄物
5) 羊衿	2枚	3% x 5% 長方形	"	"
6) 首帯	幅0.5寸	6% x 2% 4% x 2%	"	"
7) 足	2枚	4% 正方形	楮紙	白色
8) 袴	1枚	18% 正方形	友禪和紙	柄物
9) 白髻	1枚	18% "	新緑紙	白色
10) 法被	1枚	18% "	友禪和紙	柄物
11) 大色紙		粘アクリル漆全済	スポンジ	サマ

ちに、獅子の精がのりうつるといった趣向で、前半の女性らしい顔りと、後半の男社な獅子の顔とが対照的にできている。
 (後日正勝)



六世尾上新五郎

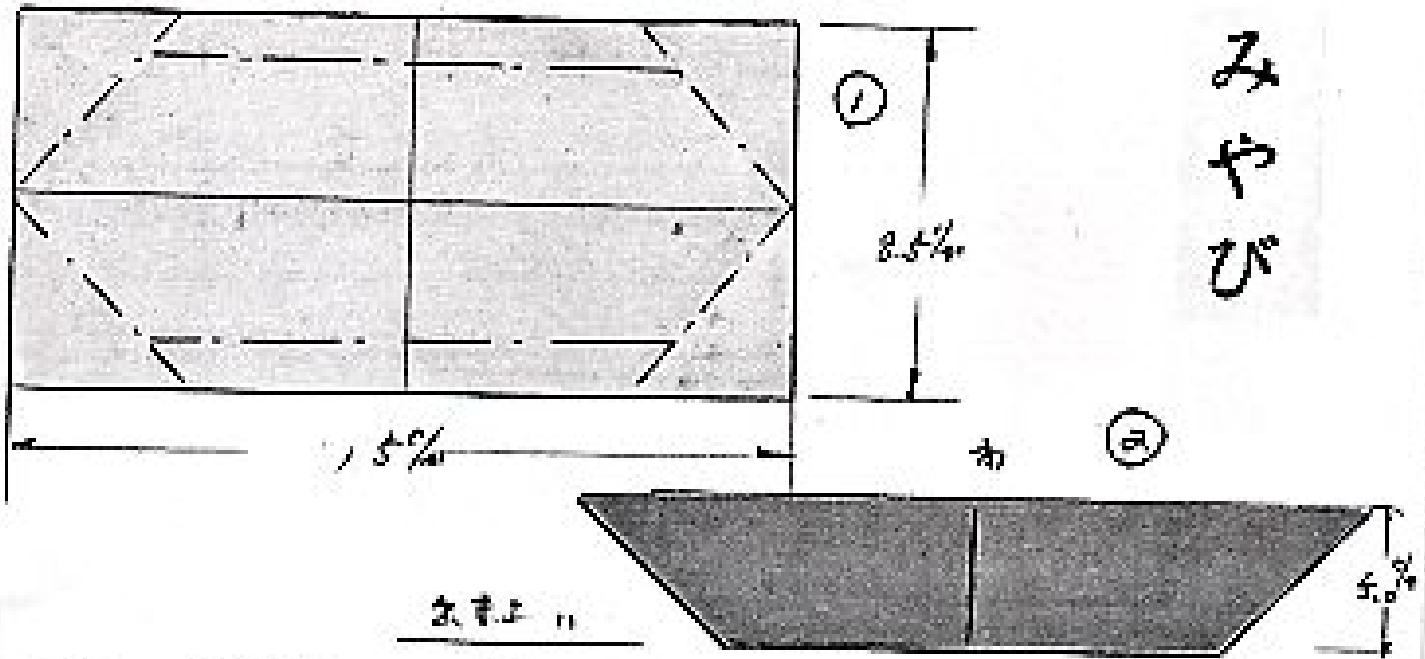
鏡獅子 謡。歌舞伎舞踊劇、新歌舞伎十八番の一つで、初演のときの名題は「春、見鏡獅子」。明治二六年、東京歌舞伎座で、九世市川團十郎によって初演され、六世尾上新五郎によって今日の流行をみた。作詞は、相地隆輝、作曲は、三世杵屋正次郎による長唄曲で、舞付は二世藤間勘右衛門と九世團十郎。「石橋物」の一つとして伝えられた古典の「鏡獅子」を改作したもので、遊女を大奥の女小姓とし、鏡開きの余興に干獅子をもつて舞っている。

三)

手 (1枚)

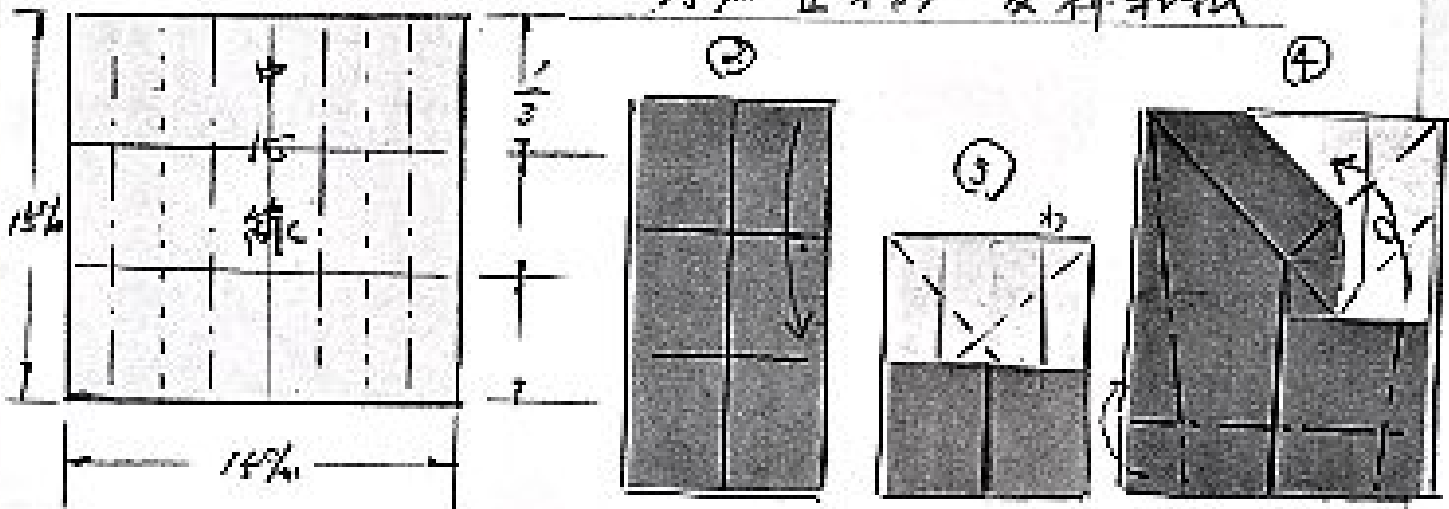
15cm x 25cm

絹織色



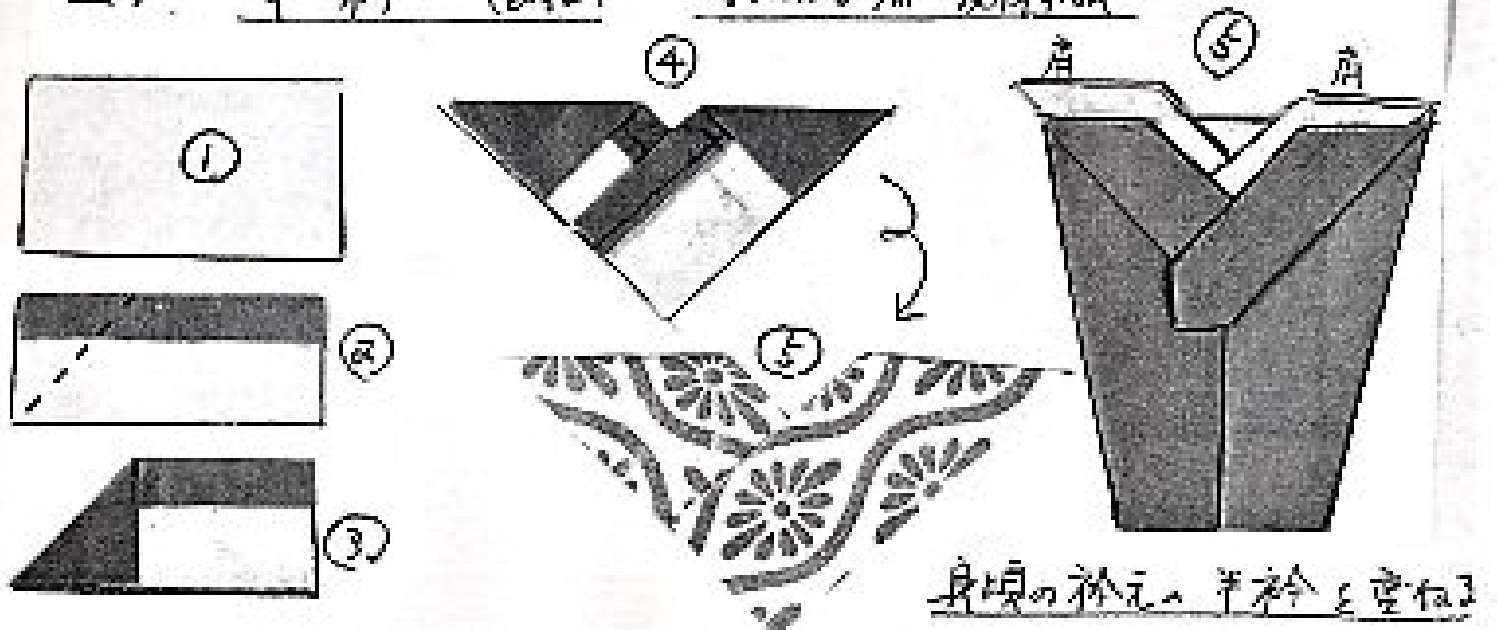
四) 身頃 (1枚)

15cm 正方形 友禪和紙



五) 羊衿 (2枚)

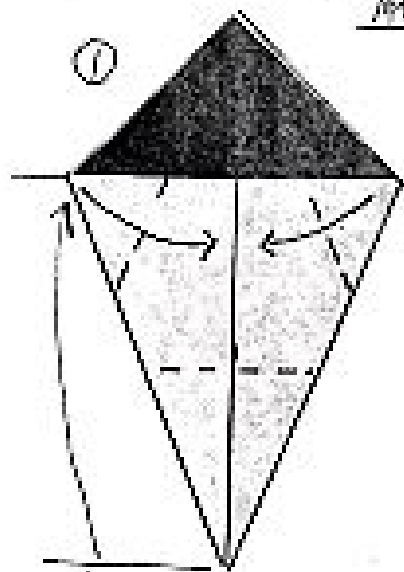
7cm x 5cm 友禪和紙



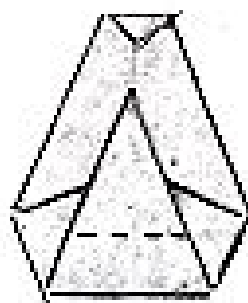
一) 扇 (1枚)

5% 正方形 薄紙 白色

扇の基本形



②



(裏側)



首 1/4

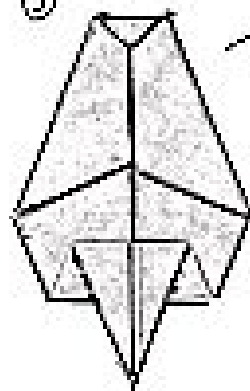


帯幅の面線

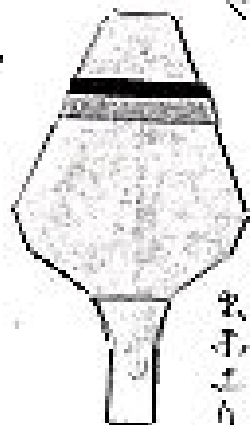
5% x 2% (1枚)

(白色)

③



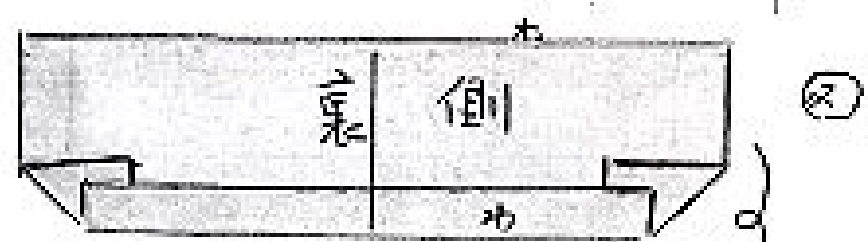
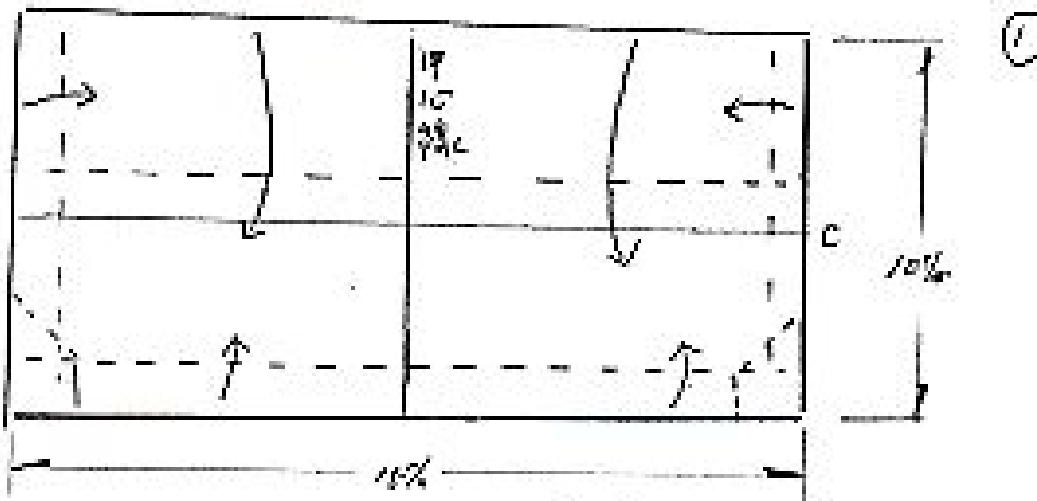
④



出来上

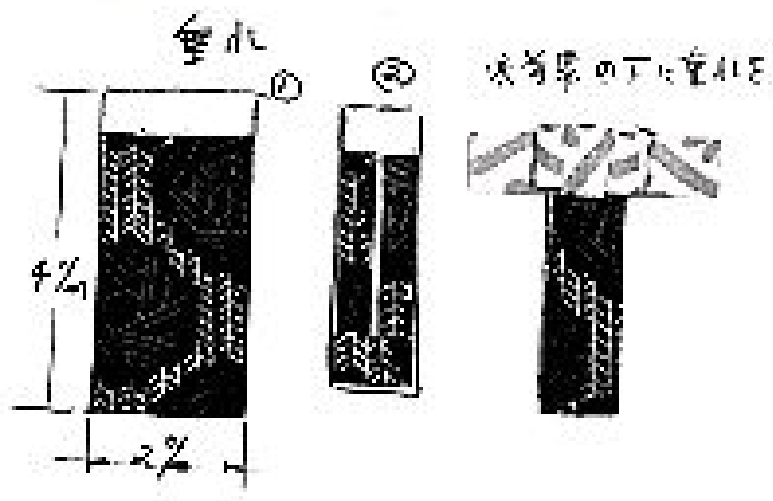
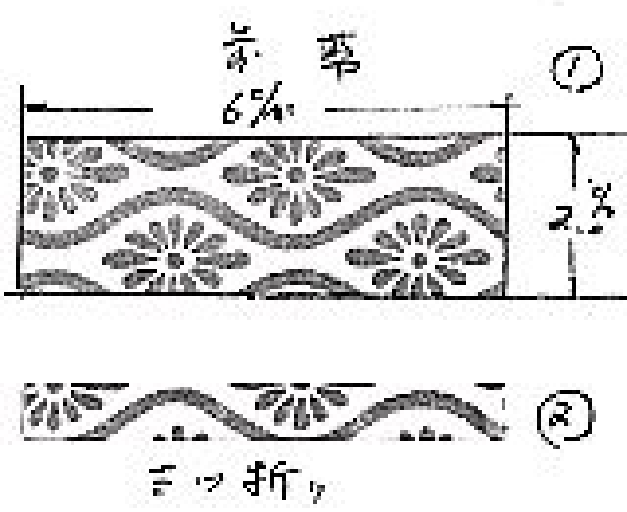
二) 袖 (1枚)

15% x 10% 厚紙 和紙

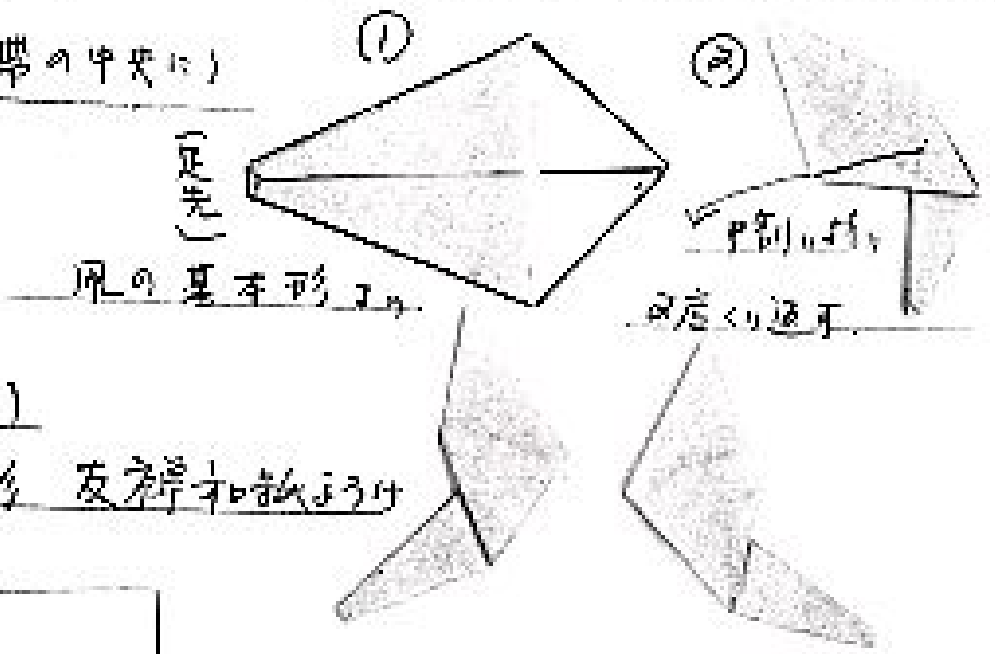


出来上

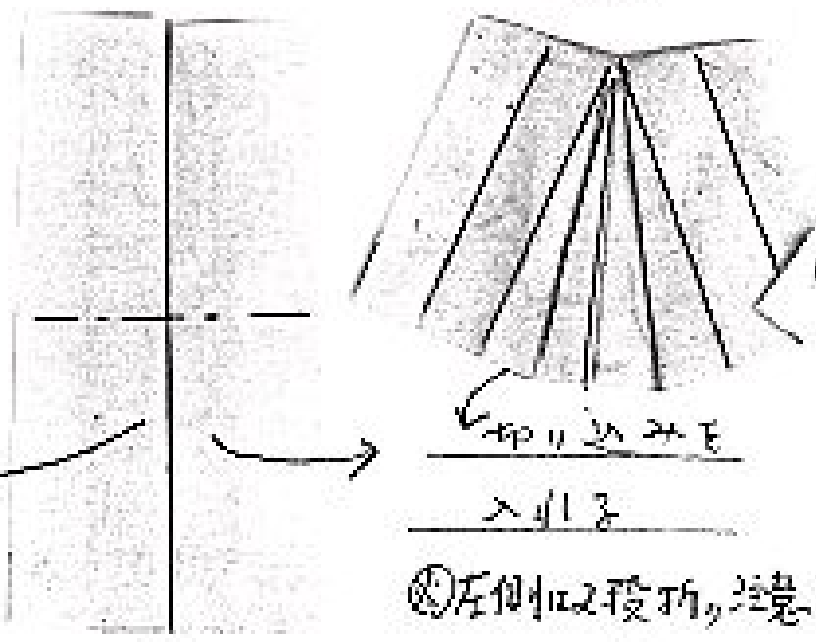
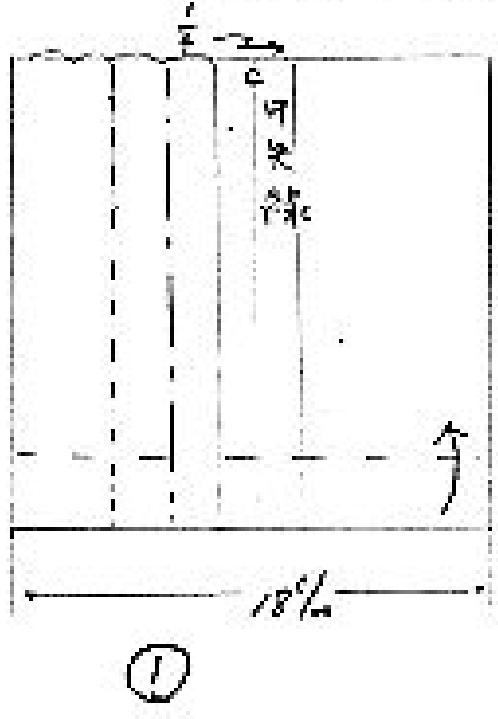
六) 茶帯(17寸) 結び(17寸) 重水(17寸)



七) 足(2寸) 4.5寸正方形 補紙



八) 袴(17寸) 18寸正方形 反裨和紙折り付

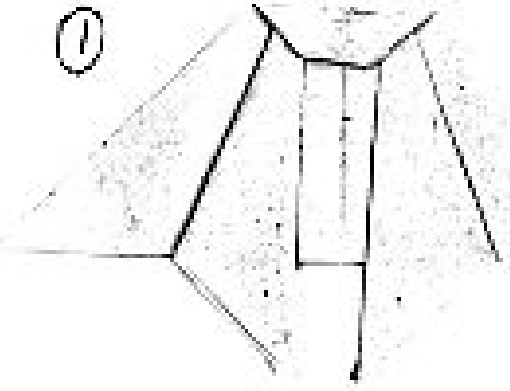


③ 左側は反裨折、縫

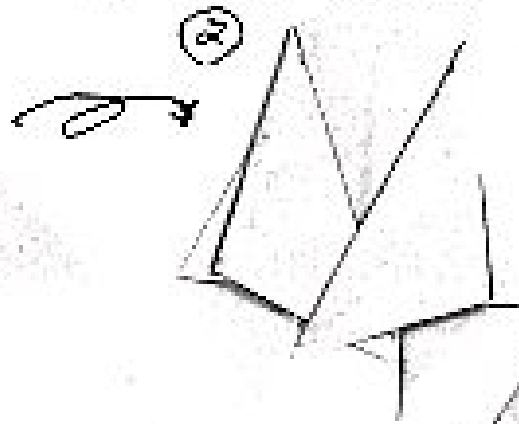
風船の基本形例

高橋吉永の作

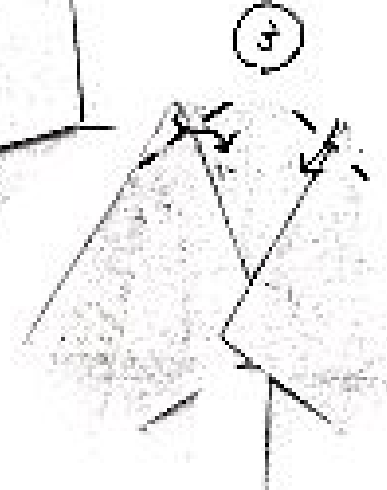
①



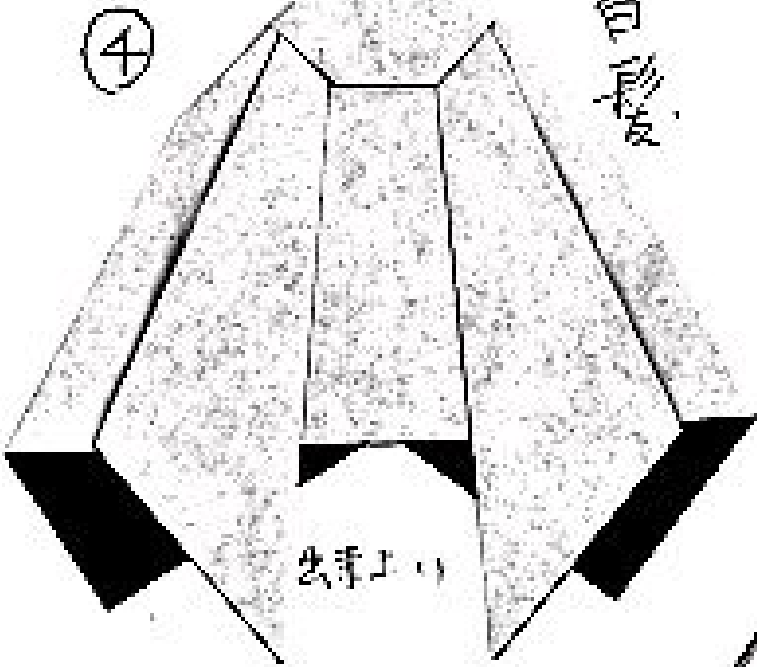
②



③



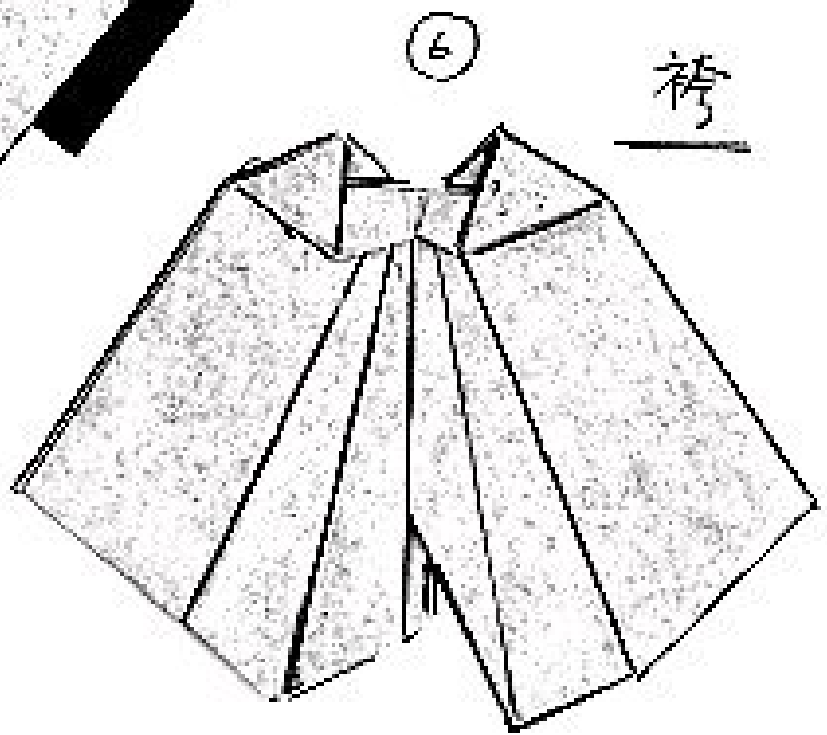
④



白紙

出陣上

⑤



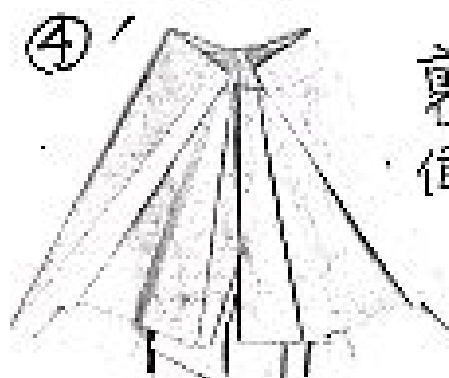
袴

④



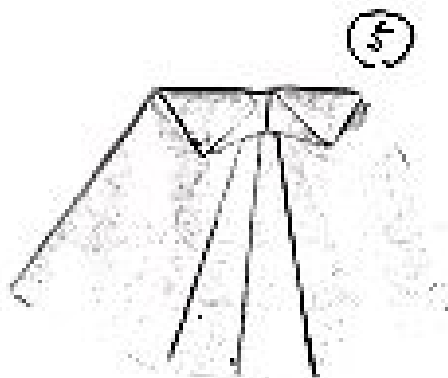
表側

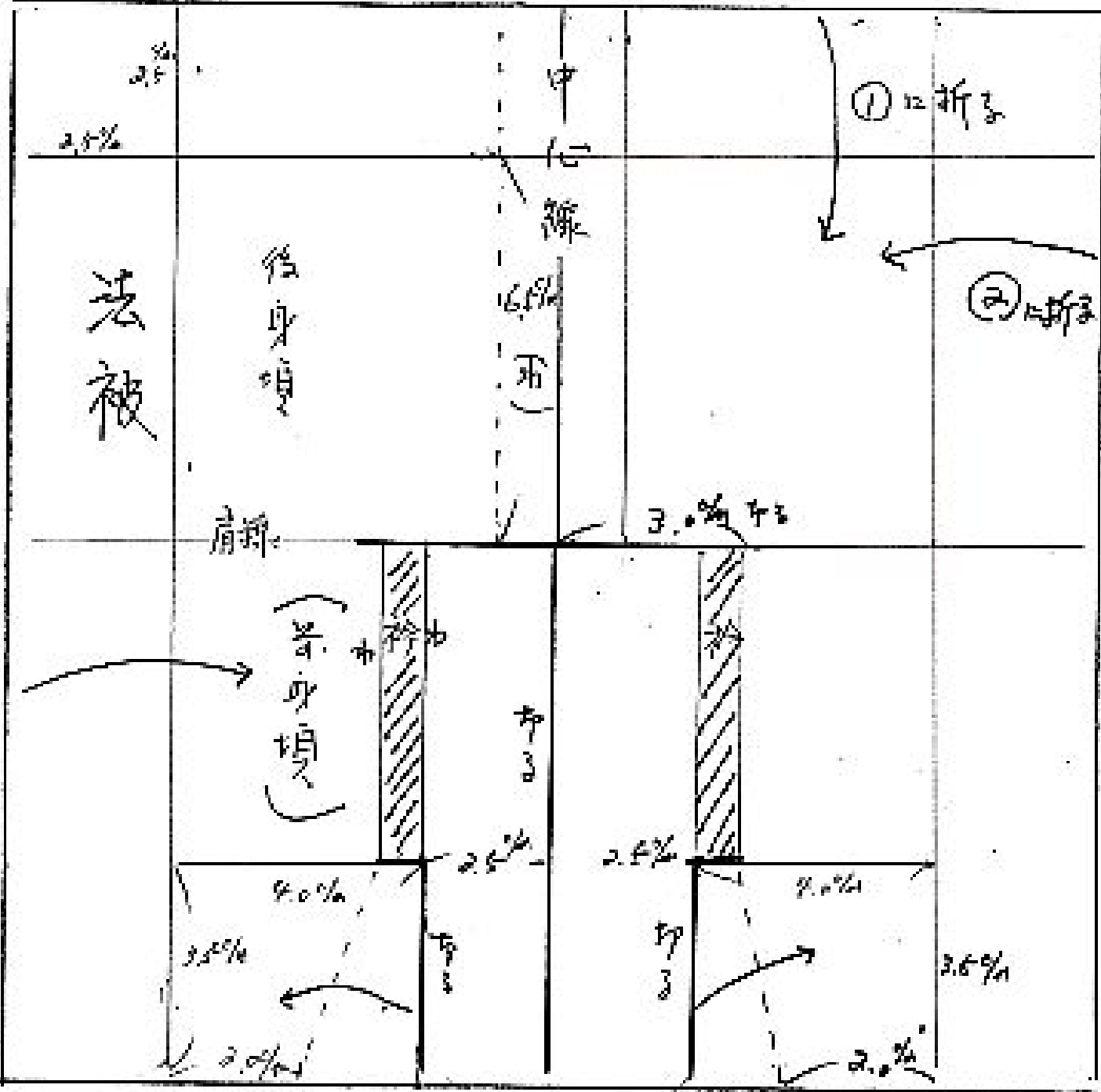
④



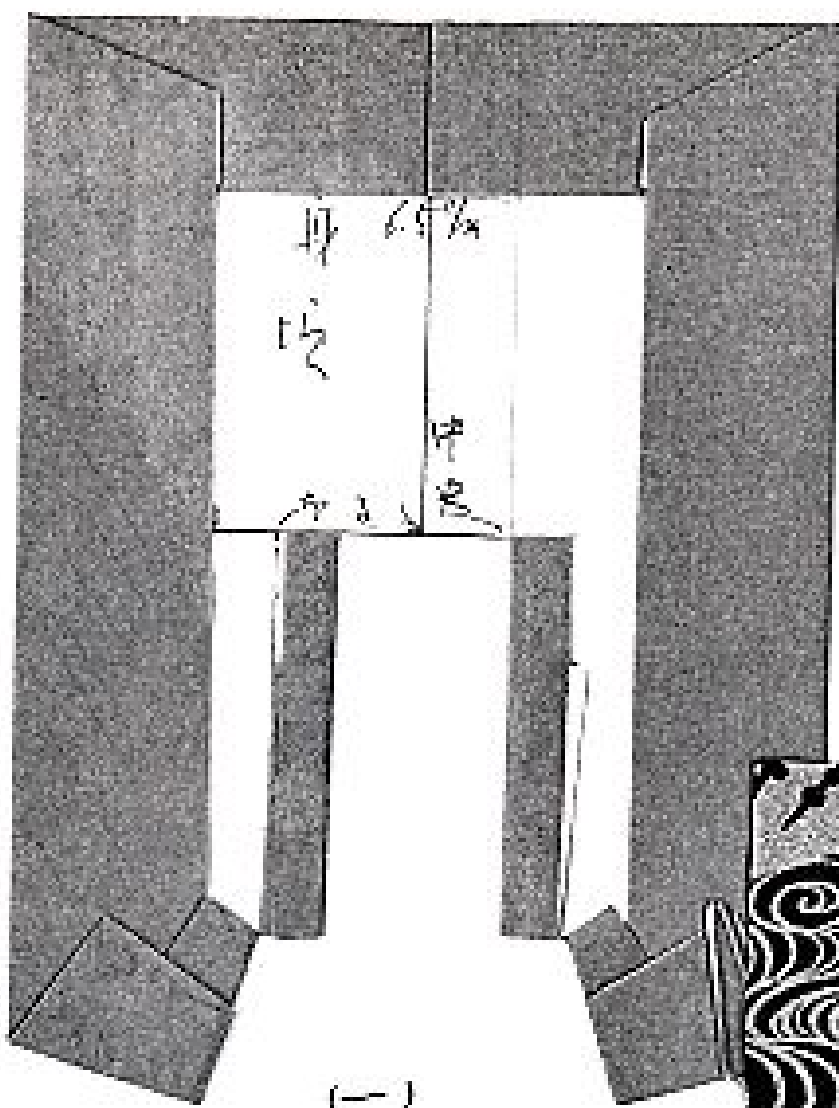
裏側

⑤





(十) 法被 12% 正交形 (1折子) 表襟線



身 6.5%
 1.5
 1.5

(一)
 裏側 表紙

(二)
 法被表側

表紙上



14.13.12.7.金